

会 議 録

1 会議名

令和7年度 第4回中郷区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

（1）報告（公開）

- ・ 濁水対策について

（2）協議（公開）

- ・ 自主的審議事項「中郷区型コミュニティバスのあるべき姿」について
- ・ 新たな自主的審議事項「い～住プロジェクト」について
- ・ その他

3 開催日時

令和7年7月28日（月） 午後6時30分から午後7時45分まで

4 開催場所

中郷コミュニティプラザ ホール

5 傍聴人の数

報道0名

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く。）氏名（敬称略）

- ・ 委 員：竹内会長、陸川副会長、尾崎委員、桐山委員、高橋委員、竹内委員、村越委員、陸川委員、欠席4名
- ・ 事 務 局：中郷区総合事務所 高波所長、金井次長、桐山地域振興班長、更山地域振興班主事、野坂福祉班長、早川税・市民生活班長、平原教育・文化班長

8 発言の内容（要旨）

【桐山班長】

会議の開会を宣言。

上越市地域自治区の設置に関する条例第 8 条第 2 項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告。

【竹内会長】

7 月 11 日（金）に実施した、4 区合同研修会では、準備等ご協力いただき、感謝申し上げます。他の区の委員からも、とても有意義な研修会だったという話を聞いている。7 月 23 日（水）地域政策課から、自治推進プロジェクトについて再度ヒアリングがあった。本日の地域協議会終了後に皆さんから出た意見を整理させていただきたい。

会議録の確認を高橋委員と竹内委員に依頼。

初めに、報告事項について、事務局に説明を求める。

【金井次長】

渇水対策の状況について、3 点報告させていただく。

1 点目は、給水スポットの設置について。正善寺ダムの水位の低下が著しく、7 月 24 日（木）から、節水対象地域外の公共施設に給水スポットを設置した。7 月 28 日（月）時点で、市内 20 か所に設置している。中郷区では、総合事務所の北側と南側に各 1 か所、保健センター入口に 1 か所の合計 3 か所の給水スポットを 24 時間、開設している。高田・直江津方面の方や板倉区の方が利用されている。

2 点目は、節水のお願いについて。節水対象区域内の方については、40%以上の節水をお願いしているところであるが、中郷区を含めた節水対象地域外の方についても 20%以上の節水にご協力いただくことになった。20%以上というのは、お風呂の浴槽の半分程度の約 100 リットルが目安となる。防災無線により周知を行う。

3 点目は、農業用ため池の放流について。片貝川、渋江川などの農業用水の水量不足により、関係町内会及び農業従事者からの要請を受け、7 月 19 日（土）から泉ため池で、7 月 21 日（月）から水上貯水池で農業用ため池の放流を開始した。毎週水曜日に貯水量を確認しており、7 月 23 日（水）時点では、泉ため池で満水時の約 99%、水上貯水池で約 94%となっている。今後、貯水量の減水状況を見ながら、必要に応じて水源地からの給水も検討したいと考えている。

【竹内会長】

今日の午後、社会福祉協議会の地域福祉専門部会に出席した。社会福祉協議会でも、断水となったときのシミュレーションをしながら、何ができるか計画を立

ているところ。節水についても、できることを行っていきたい。農業従事者向けの、かん水用ポンプのリース料等の補助金はあるか。

【金井次長】

農業従事者等を対象に、ポンプの借り上げ料や購入費に関する支援を実施している。地域の方から問い合わせがあった場合は、産業建設業務窓口班を紹介していただきたい。

【村越委員】

8月2日（土）に開催する「なかごう夏まつり 2025」では、節水対策として岡沢の旭清水を利用して水鉄砲合戦体験を行う予定。市として問題ないか。

【金井次長】

水道ではなく、湧き水を使用しているということを、来場者へ分かるように表示いただければ問題ない。

【高橋委員】

給水スポットを24時間開設しているということだが、管理者等はあるのか。

【金井次長】

管理者は配置していない。

【高橋委員】

管理者がいない状態で、利用者が蛇口の閉め忘れることがないかが心配。

【竹内会長】

これから、中郷区へ給水に来られる方が増えてくると考えられる。利用者のモラルによるところもあるが、今後も利用状況等の経過観察をお願いしたい。中郷区内でも湧水について不安を感じているという意見が出てくると思うが、総合事務所と連携をとりながらできることをしていきたいと思う。

それでは、協議に移る。(1) 自主的審議事項「中郷区型コミュニティバスのあるべき姿」について、事務局に資料 No. 1 の説明を求める。

【桐山班長】

資料 No. 1 を基に説明。

【高橋委員】

水曜日に、さくら号の体験乗車に行ってきた。水曜日は、かなりハードな運行スケジュールだと感じた。運転手のトイレ休憩が5分程度しかない時間設定だった。冬場も同じ運行スケジュールだと、かなり遅れが出てくるのではないかと思

う。降雪の時期になる前に、冬場は時間が遅れるかもしれないという旨の周知を行った方がよいのではないかと感じた。

乗車した方が「毎週利用している」と話していた。買い物と病院を一緒に済ませるために、病院の予約を変更したという話を聞き、利用者側でも工夫している様子が分かった。

【竹内会長】

すぐに運行スケジュールの見直しをしていくことは難しいかもしれないが、運転手にヒアリングしながら、無理のない運行を実施してもらうように、まちづくり振興会へ話そうと思う。

【尾崎委員】

両親がさくら号を頻繁に利用している。原信のシルバースデーが木曜日に設定されていて、現在の運行スケジュールだと、木曜日に利用できない状況がある。先日、まちづくり振興会へも話をしたが、毎週ではなくても、シルバースデーを利用できる日や年金支給日に臨時便が出るとありがたい。

【竹内会長】

できるだけ利用者の意に沿うような運行ができるようになるとよいと考える。

続いて、令和7年度の「子どもの い～場所開設事業」について、事務局に資料 No.2・3の説明を求める。

【桐山班長】

資料 No.2・3を基に説明。

【竹内会長】

みなさんから、い～場所開設事業について、まちづくり振興会へ丸投げにならないようにという意見が出ていたので、まちづくり振興会の岡田理事長と岡田事務局長に同席していただいて、地域協議会としての意見を文書で提出し、共有した。

先日、小学校の保護者会で、い～場所開設事業の説明を行った。その時の意見について、資料 No.3に記載してある。作成したチラシを保護者が見て、子どもと相談し、参加申し込みをすることになると思うが、子ども自身が、い～場所開設事業について認知していないのではないかなと思う。これから継続して事業を行う中で、子どもたちの中でも定着していくことが大切だと思う。そのため、子ども向けの分かりやすいチラシがあるとよい。

今年度の事業予定については、今後まちづくり振興会で決めて周知していくことになると思うが、みなさんからも現場を見ながら協力いただきたいと思います。

「こ食」事業も先週から始まり、5回の平均で42～43名の子どもたちが参加する。総合事務所の職員やボランティアにも協力してもらっている。かなり人手が必要だと感じているので、見守り体制についても検討が必要である。

次年度の地域独自の予算事業として、い～場所開設事業の継続を提案していきたいと思うが、どうか。(異議なし)

次に、(2) 新たな自主的審議事項「い～住プロジェクト」についてに移る。本日は、短期的な目標と長期的な目標について検討する。移住定住について協議することは、かなり幅広い分野にわたる課題や取組みが想定されるため、みなさんの意見を聞きながら意識の共有を図っていきたい。

まずは、事前配布資料でもお願いしたとおり、短期的な目標と長期的な目標と、その目標を達成するためにどの分野をどの様な体制で協議を進めるか、みなさんの意見を伺いたい。

【桐山委員】

短期的な目標としては、ウェブページを作成し、今の中郷区の状況を発信すること。中郷区として発信する情報をもっとあると思うので、移住・定住に限らず、ウェブページを見てもらうことが大切だと思う。

長期的な目標としては、中郷区の強みを見つけてPRを行い、人口増に繋げていくことを考えている。

【竹内会長】

短期的目標の「短期的」とは今年中くらい、長期的目標の「長期的」とは任期までの3年くらいを想定しているが、各委員の認識はどうか。

【陸川委員】

短期的な目標は、1年以内を目途に、どのようなことをPRしていくかを決めて、計画していくこと。長期的な目標は、移住促進のための内容的な部分、私は農業をしているので、農業従事者へ聞き取りをして、土地の開放等を含めた移住者の募集方法について検討を行うことができればよいと思う。

【竹内委員】

短期的な目標は、1年くらいの間に、空き家などが現在どのような状況にあるのかを確認した上で、みなさんとどのようなことができるか意見交換を行い、ウェブページを立ち上げ、情報発信を行うこと。長期的な目標は、3年以内に移住の募集をかけていくこと。また、そのために農業、子育て、自然などの様々な分野で情報発信をしていくことがよいと思う。

【高橋委員】

短期的に何を協議するかをまとめる方が重要であると考えます。「い～住プロジェクト」は課題が多岐にわたるため、その中で何を協議するか、地域協議会委員の

中でチーム分けをして協議を行うか、新しい団体を立ち上げるのか決めた方がよい。「い〜住プロジェクト」をうまく進めていくためには、現状、上越市で移住定住のためにどのような支援があるか理解する必要がある。さらに、ウェブページの作成は予算が絡んでくる。1カ月に1度の地域協議会だけで検討を行うのではなく、若い委員を中心にプロジェクトチームを組み、次の地域協議会までの間に、検討を行っていくのがよいと思う。ある程度の方向性が固まれば、地域協議会全体として、スムーズにプロジェクトが進めることができると思う。ウェブページ開設について、年度末を目途に進めるのであれば、来年度の地域独自の予算事業の申請に間に合うように計画を立てる必要がある。

【竹内会長】

短期的な目標としては、今年度中を目安に、何ができるか意見を出して絞り込む、長期的な目標としては、任期中にひとつの形になるような取り組みを行っていくということによいか。

【村越委員】

移住を促進していくために、まずは田舎暮らしをしたいと思った人たちが検索したときに、中郷区がヒットしていく必要がある。そのために、情報発信の体制を整えることが重要だと考える。発信方法として、インスタグラムやブログなどがあるが、業務委託を行わないと、継続することが難しいと思う。さとまる学校のインスタグラムは、事務局が頻繁に行っているの、そのような情報発信の体制が必要だと思う。

我々は、移住定住に対して素人なので、勉強する機会を設けることや、コンサルタントへの依頼ができることよい。コンサルタントへの依頼となると、依頼料等も発生するため、中郷区単体で行うことが難しい場合は、上越市の中山間地域全体として、移住希望者が情報を閲覧できる仕組みができ、その中で、中郷区独自で情報を発信できるようになるとよいと思う。長期的には、移住者を受け入れていくということもあると思うが、現状だとハードルが高いのではないかと思う。

【竹内会長】

村越委員から発言のあったとおり、今までの経験上、情報発信の体制はボランティアだと上手くいかないと考えられるので、仕事として受けてくれる方を探したほうがよい。第3者ではなく、中郷区出身で関東圏に住んでいる若者で、情報発信に詳しい方もいるので、そういった方に依頼していきたいと考えている。

また、地域独自の予算にも結び付けられるとよいが、地域協議会の中だけで、移住定住について考えても上手く進まないと考えられるので、専門家から学ぶ勉強会の機会を設けられるとよいと考えている。

【陸川副会長】

短期的な目標としては、「い〜住プロジェクト」を進めるにあたり、地域協議会が主導して行うのか、新しい団体を立ち上げるのかを考える必要がある。そうし

ないと、最終的な目的地をどこに置けばよいか難しくなってしまう。短期だとしても最終的な目的地を定める必要がある。例えば、立ち上げた団体は利益を求めめるのか、ボランティアとして動くのかなどをある程度定めておかないと、協議が進まない部分もあるのではないかと思う。

長期的な目標としては、移住者が来たら成功、来なかったら失敗とすると何もできなくなってしまうと思うので、ウェブページや専用アプリを作るなどがよいと思う。単純に移住と言っても、都会に住んでいる方から見たら、どの中山間地域でも同じように見えてしまうことも考えられるため、住む場所や就職先の情報や、景観の良さなど、中郷区の推しを見つけたり、作ったりするところから始めなければならないと思う。新潟県内の例では、中学校へ行くことができなかつた高齢者が通う夜間中学校を開設したというニュースを見た。極端な話かもしれないが、学校の授業を何かに特化したようなものにする事で、子どもたちが来たいと感じるようになると思う。

【竹内会長】

本日欠席の鹿島委員から、意見を預かっているので、紹介する。

短期的な目標としては、今年度中に、中郷区の移住に関する資源について確認・検討する、年齢層や家族構成など、どういう方々をターゲットにしていくか検討する、宣伝する為の手法を決めること。

長期的な目標としては、任期中に、決めた宣伝手法について運用・実行して、移住を募る、他自治体の活動を参考に情報収集して、可能な運用の取り込みを検討すること。

どの分野の協議を進めるかについては、まず中郷区に移住してもらうためには、何をアピールしていくか考える必要がある。情報発信としてSNSを活用するようになった場合に、専門家を呼んで勉強会を開く事も必要になってくる。体制づくりについては、チーム分けをして進めていければ良い。運用内容によっては、新しい団体も立ち上げる必要がある。

概ね、鹿島委員も皆さんと同じような意見をお持ちいただいている状態。

先ほど高橋委員の発言にあった、新しい団体の立ち上げについて、私も賛成する。団体を立ち上げるにあたり、「い～住プロジェクト」について提案いただいた桐山委員を中心に若いメンバーで組織してほしいという思いがある。中郷商工会が統合したことにより、行き場を失った若者たちがいるという話も聞いているので、その方たちと一緒にプロジェクトを進めることができるとよい。

【高橋委員】

仲間づくりが大切になってくると思う。地域協議会委員と委員以外がチームを組んで、事前に協議できればよい。それは、人材育成にもつながる。チームで「い～住プロジェクト」の短期的・長期的目標の絞り込みや、調査等を行い、プロジェクトを実行する時に、新しい団体を立ち上げることができればよいと思う。

【桐山委員】

移住に対して、全員がポジティブに受け入れるかは分からないので、目標を立てていない状態での仲間づくりは難しい。地域協議会である程度の目標を見据えた状態で、仲間づくりをしていきたい。

【高橋委員】

地域協議会だけで、目標を立てて進めるよりも、若いメンバーも含めて考えていければよいのではないか。

【竹内会長】

地域協議会としての人材育成を考えると、ラフに活動できる場面を作ることでもよいと思う。桐山委員に負担がかからないように、協力して進めていきたい。今年度中の目標として、農業に関する人など、専門的な知識がある人を仲間にしていくことができればよいと思う。それを考える上で、外部講師を呼んだ勉強会やコンサルタントの話を聞く必要性があれば、事務局と相談していく。地域独自の予算として提案が必要であれば、検討していく。

【桐山班長】

市が行っているU・Iターン促進の取り組みのほとんどが、上越市への移住を決めた方へ向けたものになっている。地域協議会として、移住定住の促進に向けて動くときに、どの情報を誰に向けて発信するか、移住者向けにするか、定住者向けにするか整理する必要がある。また、高校卒業を機会に、区外へ出る方が多い現状があるため、そのような方たちが戻ってこられるような状況ができればよいと思う。

村越委員から発言のあった内容について、上越市の中山間地域全体として、移住者が増えればよいと考えているか、中郷区に限定したU・Iターンを考えているか伺いたい。

【村越委員】

上越市として、中山間地域への移住促進の具体的な取り組みはあるのか。

【桐山班長】

現状はない。

【村越委員】

個人的には、中郷区に移住してほしいという思いがあるが、上越市として、移住促進のための情報発信等に予算を使うのであれば、中郷区だけでは難しいのではないかと考えている。

【桐山班長】

地域協議会委員の研修のための講師派遣費用については、現行の地域協議会の予算から支出することが可能。実際に情報発信を行う等、新たな活動に関わる部分については、地域独自の予算を活用いただければと思う。

【村越委員】

上越市の移住定住に関する取組みの流れに乗りながら、中郷区独自でも、「い～住プロジェクト」を進めることができればよいと思う。そのような流れが難しいのであれば、まず、我々も移住定住について勉強したいという思いがある。

【尾崎委員】

岡沢に移住した方と一緒に山へたけのこを採りに行ったときに「地元の方に山へ連れて行ってもらいたかったのでよかった」と話をしていた。移住者に対して、どのような経緯で移住してきたかを聞き出すことはできると思った。

【竹内会長】

本当は中郷区発信で、上越市全体が移住定住を促進できる流れができるとよいと思っているので、初めに大きな目標を立てることもよいかもしれない。中郷区の中でコンサルタントを依頼しても、そこで話が終わってしまい、なかなか次に進めないことが考えられる。実際に、誰にどんな話を聞きたいか絞り込んで、必要であれば予算付けできればよい。それを、若者中心で構成する新しい団体と協力しながら進めていきたい。移住と定住だと、考え方も変わってくる。そのあたりも整理していくこととする。近い内に、会長・副会長・桐山委員で、今後どのように進めていくかを考えていく。

一昨日、さとまる学校が市から受託している、空き家相談で、空き家の売却について相談があった。今の体制だと、不動産屋を紹介する流れになるが、もし移住者が中郷区で空き家を探しているという情報が入れば、直接紹介することもできるようになると思う。今年度中に、新しい団体の立ち上げに向けた方針を検討できればよいと思うので、お盆明けに招集させていただく。

長期的な目標としては、任期中にウェブページや、ポータルサイト、アプリ等を開設して、中郷区の情報を発信できれば良いと思う。

【陸川委員】

会長の意見に賛成する。若いメンバー中心に動いていただき、これからの中郷区について考えてもらえればよいと思う。

【竹内会長】

来年度の地域独自の予算事業の申請に間に合わせようとする、焦りなどで思うように進まない部分もあると思う。緊急性の高いものについては、事務局と相

談しながら進めていきたい。ある程度、慎重・丁寧に「い～住プロジェクト」を進めていきたい。

【陸川副会長】

地域協議会で、家を購入することはできるか。活動の拠点地になればよいと思う。

【桐山班長】

内容によるので、後ほど、構想を確認させていただきたい。

【竹内会長】

地域協議会で、物件の購入等は難しいかもしれないが、新しい組織の拠点となれば、旧中郷商工会の建物や、空き店舗、空き家を活用することができるかもしれない。

これから新しい団体が立ち上がった場合に、その方たちが何をしていきたいか、地域協議会と共有できるゴールを決めて、残りの任期中は動いていくこととしたい。

以上で、本日の協議を終了とする。

【桐山班長】

地域協議会だより 68 号を発行し、全戸配布を行った。次回は、12 月または 1 月に発行予定のため、11 月の地域協議会で相談させていただきたい。

今年度の視察研修の実施について、次回協議いただきたい。

【竹内会長】

その他委員、事務局から発言はないか。(なし)

以上で、本日の地域協議会は終了とする。

9 問合わせ先

中郷区総合事務所 総務・地域振興グループ

TEL : 0255-74-2411 (内線 165) E-mail : nakago-soumu.g@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。